

癩者の改心

—友への便りにかえて—

フランシスコ

東條耿一

あなたのお言葉は私を大変淋しくさせました。それはあなたが、私の日頃抱いている考えについてお判りにならなかつたからではなく、あなたに判っていただけない私の信仰の弱さのためです。「私は癩になった事を深く喜んでゐる。癩は私の心を清澄にし、私の人生に真の意義と価値を與えてくれた。癩によって私は始めて生き得たのだ。私を癩に選び給ひし神は讃むべきかな。」の私の言があなたにはどうしてもお氣に入らない様ですが、私が癩の疾患を喜ぶのは、苦痛を人生の正しい条件として肯定し、苦痛を愛するが故であります。

あなたのお手紙の中で、それは負け惜しみだ、心では泣いてゐるくせに、と云われ、又、たいそう悟りを啓きなすつたわね、と皮肉たっぷり調子で申して居られますが、これはあなたの嘲笑の心から出たのではなく、寧ろ憐憫の情からのものと、私は善意に解しておきます。しかし、あなたのお言葉に対して全面的に否定します。

あなたは私の如き凡庸な人間が人生にとって最悪の悲惨事であるべき不治の業病に罹りながら、却ってその疾患に、その境遇に限りない喜びを覚えるということが、健康者であるあなたには、何かあり得べからざる現象として映り、率直に承服し難いのでありましょう。

これは一応無理からぬ事で、あなたばかりでなく、私の周囲の者、つまり同病者の中にすら癩者の苦痛が判らないのか、そればかりか家族の苦しみを思うだけでも癩の何処がよいのか、と肩を怒らして撲りかねない剣幕で、私の鼻先へ拳を突き出すでしょう。ごもっとも千万です。私だとて、そのようなことが判らぬではありません。

然し、神は恩恵を奪うことによって更に大いなる恩恵を約束する。諸々の苦痛は謂わば、その約束の印です。神の愛は惜しみなく奪うところにあることを人は案外忘れ勝ちではないでしょう。譬えば、私の場合の一つを拾いあげて見ますと、私は癩という世の人の最も忌み嫌う不治の疾患に罹ったが故に、カトリックになり得たのです。神との一致、救霊の道とその方法を與えられたのです。

或いはあなたは言うかもしれない。癩にならなくともカトリックにはなれたかも知れぬではないかと。それは可能でありましょ

う。その様な場合には、神はまた癩と違った方法で私の救霊の道を啓示し給うたかも知れません。神の摂理は偉大でありますから、その辺の所は測り難いでしょう。

苦痛なしには私達は存在しません。苦痛は人生の最大要素です。少なくとも私はそう感じています。苦痛がある故に我々は生きていられる。茨の道を踏まずして天の門には至り難いでありましょう。これは基督が十字架の上に於て身を以て我々に示し給うた所であります。「汝もし救かりを得んと欲せば己が十字架を負いて我に従え」とある如くで、苦しみによってのみ我々は神と一致することが出来るのです。

私は苦痛の重荷を感じると何時も、ヨブ記を繙くことにしています。これはヨブ記に自己の苦しみを紛らせる為でなく、ヨブの如く苦しみを愛したいが為であります。ヨブが神の試みに逢ってサタンの手に渡され、その持物、羊、駱駝、馬、夥しい僕達をことごとくサタンの手により奪われ、家は覆され、身は癩になって了い、かくして激しい苦杯を舐め、惨苦のどん底に突き落とされたのでありますが、ヨブはなお天を仰ぎ地に伏してエホバの御名は讃むべきかなと神に光榮を帰しています。惜しみなく奪う神の愛をヨブははっきりと知っていたに違いありません。

私は基督教的苦しみの忍従が限りなき喜びであり愛の勝利への
転換であることを述べましたが、私の貧しい言がどれだけあなた
の心を掴み得たかと思うと甚だ心淋しさを覚えます。私は己に苦
しみを望みませんが與えられる苦痛は神の愛として肯定し、喜ん
で力の限り愛したいと思います。苦痛を愛の忍従に転嫁してヨブ
の如く生きたいと思います。惜しみなく恩恵を奪われた者のみ、
よく真に神の愛を感じる事が出来るでしょう。私を癩者に選り給
いし神は讃むべきかな。(故人)

主の御胸によりかかりて
福音のきよき流れを、主の
御胸の聖き泉より飲みぬ、かくて
神の御言葉の恩寵を全世界にこそぎいだせり。
(福音史家聖ヨハネの聖務日課の答誦)